

虚子記念文学館投句特選句・令和八年三月

稲畑廣太郎 選

汀子師の魂飾る雛の日

京都 西村やすし

虚子館の庭や清楚な白椿

新潟 安原 葉

むらさきは淡海の吐息蜆汁

香川 葛原由起

大琵琶を空つぽにして鳥帰る

兵庫 岩水ひとみ

俳磚の歲月包む春日燦

大阪 徳岡美祢子

芦屋川流れつまづき山笑ふ

兵庫 深尾真理子

青空へ句読点なる木の芽かな

岐阜 丸山美樹

去る我に又会へるよと山笑ふ

兵庫 船山美貴

春宵や光を零すカルーセル

兵庫 武田奈々

雪礫転がりながら友へ投げ

兵庫 藤丸慎士
(青少年)

| | | | | | |
|------------------|----|-------|-----------------|-----|---------------|
| 地虫出づ一山少し動かして | 香川 | 三宅久美子 | 味噌蔵の小さき高窓つばめ来る | 埼玉 | 吉田春代 |
| 人生の第二章とや春田打つ | 徳島 | 多田まさ子 | 春苑の香木の枝の大打に | 三重 | 水越晴子 |
| 春月や赴任地のことまた尋ね | 兵庫 | 永沢達明 | 俳磚の庭の一隅木瓜の花 | 兵庫 | 奥田好子 |
| 鬪鶏の血のりの檻の残りたる | 兵庫 | 辻 桂湖 | 野球部の髪へすーつと風光る | 大阪 | 中 金稿 (青少年) |
| 転寝の夢のぼんやり春炬燵 | 兵庫 | 槌橋眞美 | 春の雨俳句を吟ずる友の横 | 大阪 | 鈴木颯真 (青少年) |
| 師も友もその中にかと春の星 | 大阪 | 林 曜子 | 春分の日の雨あがる誕生日 | 大阪 | 村岡 実 |
| 恋文のごと苗札に墨入れる | 鳥取 | 前田 千 | あたたかや句会復帰を果たされて | 京都 | 山崎貴子 |
| 樹の影をはみ出してゐる落椿 | 鳥取 | 椋 則子 | 啓蟄や地面に伏せる赤き花 | 兵庫 | 辻田あづき |
| 詩心をふところに抱き野に遊ぶ | 鳥取 | 椋 誠一朗 | 六甲の霞て三代句碑を訪ふ | 滋賀 | 堀田 民 |
| 良き知らせ夫と味はふ桜餅 | 大阪 | 河村久美子 | 白椿紅椿あゝ虚子記念館 | 兵庫 | 中村澄子 |
| 春嵐昨日のことはみな忘れ | 兵庫 | 松本 敬 | 三月や神戸空襲八十年 | 兵庫 | 平田 恵 |
| パスキーの馴染めぬ齡土筆摘む | 大阪 | 椋本望生 | 春水の時に光りて堰落つる | 兵庫 | 八木和代 |
| 咲き満ちて緋木瓜に長き棘ありぬ | 千葉 | 志村 肇 | 虚子館に友の俳磚春立つ日 | 兵庫 | 伊東伸子 |
| 昼の月小径に青きいぬふぐり | 東京 | 清水ぼっぼ | 春分の日の虚子館に学びをり | 兵庫 | 藤井啓子 |
| 寄鍋や絶対好きと思ひつつ | 富山 | 三河三可 | 草の芽やまだらに土手の色足して | 大阪 | 田邊育子 |
| 春の景色を変へつつ春めきぬ | 兵庫 | 松浦百重 | 春泥の底にこつそりレアアース | 静岡 | いたまき忠 |
| 六甲の稜線ゆるみ春めきぬ | 兵庫 | 山崎渺美 | 友逝きて麻布狸穴余寒かな | 兵庫 | 高市敦之 |
| 太陽に力戻りて春めく日 | 兵庫 | 金田八江子 | 庭先の玩具カラフル水温む | 兵庫 | 二瓶美奈子 |
| 鮎子や細き玻璃めく群れ光る | 兵庫 | 西尾とし子 | 如月の海の眩しさ果しなし | 兵庫 | 田中節夫 |
| 春めきてただそれだけで良き一ト日 | 兵庫 | 山口弘子 | 垣根越し挨拶かはす雪柳 | 神奈川 | 小林 心 |
| 春めきてせせらぎの音の軽やかに | 兵庫 | 山岸正子 | 三月の光の中の滑り台 | 兵庫 | 春の新々 |
| 幸ひや椀一杯の蜆汁 | 大阪 | 富永武司 | のどけしや波に上下す浮子の無為 | 神奈川 | 平野孤舟 |
| 山笑ふ吾子のことばのあふれ出し | 兵庫 | 杉浦萌芽 | 卒業や百葉箱へ放つ秘密 | 兵庫 | 風待ラテ |
| 耕人の後に従ふ鳥二羽 | 兵庫 | 吉村玲子 | 花は葉に築地いざなふ夢殿へ | 兵庫 | 福田光博 |
| 重たげに花粉抱きて杉の花 | 兵庫 | 高橋純子 | 春塵に百年旧るる租界かな | 兵庫 | 伊集院秀樹 |

| | | |
|-----------------|-----|------------|
| 新海苔や根来の椀に揺蕩うて | 神奈川 | 斉藤苑子 |
| 白猫のしっぽのカーヴ雪柳 | 兵庫 | 太平楽太郎 |
| 通ぶって回転寿司にまず鱈 | 滋賀 | 近江堇花 |
| 生菓の甘み親しく春の風邪 | 兵庫 | キートスばんじょうし |
| 譜面追ふピアノの調べ春の昼 | 大阪 | 深森明鶴 |
| 春の夕指揮棒弾むコンチエルト | 大阪 | 森重深鶴 |
| 三毛猫の眠り安らか春の雨 | 大阪 | 深森佳鶴 |
| 今ぞ知る日出づる国の長閑なる | 東京 | 宮村土々 |
| 膝打つを合図に抜ける花の宴 | 兵庫 | 岩永静代 |
| 花吹雪トイレマークの赤と青 | 三重 | 瀬川琴女 |
| 菜の花やたまご溢るるパンを食ふ | 愛媛 | 星月彩也華 |
| 日当りに船漕ぎ始む母長閑 | 神奈川 | 金子三奈乃 |
| 福耳の観音さまの桜どき | 和歌山 | 中島紀生 |
| 出雲路や蜆汁ほめ夕日また | 兵庫 | 矢車星風 |
| 花粉らを呪詛し酌む酒春の宵 | 奈良 | 豚々舎休庵 |
| 花篝老妓の頬も染めあげて | 兵庫 | 惠島祥一朗 |
| ひとつとて目より笑はぬ官女雛 | 岡山 | 岩橋のり輔 |
| みづうみの憂ひを知つてゐる蜆 | 神奈川 | 進藤剛至 |